

別紙資料3

10年後を見据えた新しい自治体管理栄養士養成プログラムのアウトライン(現状での整理) に対する実務者からの意見

研究代表者 大阪市立大学大学院 生活科学研究科 由田克士

2021年12月上旬にある県が実施した自治体栄養士研修会(中堅期栄養士対象)に同席し、一部の時間を得て、当研究班が実施した2020年度調査結果の説明、および、検討している現時点での「10年後を見据えた新しい自治体管理栄養士養成プログラム」のアウトライン(現状での整理)について説明を行った。

事後に提出されたアンケートより、回答者の勤務先や個人情報等が特定できるような内容を削除して参加者の意見を整理した。

なお、当該研修を主催した自治体より、情報等の使用について了解を得ている。

- 「人、モノ、お金」＋「情報」を適切にコントロールすることの大切さ。他職種、他部署、他組織へ打ち込める仕事の形成ができるようなスキルを身につけるような研修が必要。
- 10年先、これからの働き方という視点を持って仕事をしていなかったため、この考え方は必要だと感じました。栄養士としては、スペシャリストになりたいので、資格など取得していきたい。というところが整理できました。
- 今後、どのように働きたいかで、必要な能力も異なるため、将来のビジョンを考えることが大切だと思った。
- 改めて自分の働き方を見直す機会が持てた。行政栄養士は、1つのことを深く長く学ぶというのが難しいので、日ごろから自分の能力不足に悩んでいたが、行政栄養士としての役割、地域から期待されることを考えてみたいと思う。つなぐ、ということも大切な1つの行動だということが分かった。
- 人脈を大切に。一緒に仕事をした人、仕事で出会った人、ヒトを大切にしていきたい。県、市町問わず、皆さん悩みながらも前に進んでいることが分かった。「みんなでスキルアップ、みんなで自信を持つ！」っていい言葉ですね。
- 自己肯定感が低いというところは、本当に思い当たり、いつもこれでいいのか不安に思う気持ちがあります。そのために、認定資格(健康運動指導士、臨床栄養士等)をとっても、実際に維持や更新するための費用は全て自己負担です。スキルアップを支援する制度が今後できたらいいなと思いました。経験が長いほど退職意欲が高いというのは、本当に実感です、プレッシャーや重みを皆さんも日々感じて仕事をなさっているのがよく分かりました。
- 自己肯定感、自己効力感を高めるプログラムを考えてくださっているのが嬉しく思いました。一人職種で自分の仕事内容を理解してくれる人や周囲にいない場合もあり、自分だけでは客観

的に評価し、価値を高めていくのが難しいこともあるので、とても役立つと思います。

- スペシャリストとゼネラリストの視点、事務職との連携。
- 今後の方向性、スペシャリストでいくかゼネラリストで行くかを考えるということ。
- 他職種と協働して業務を進めていくこと、ライフステージとキャリアプラン、スペシャリストとゼネラリストの方向性
- スペシャリスト、ゼネラリストの話。勤務している自治体では、ゼネラリストにならないと昇任できない組織だと思った。
- 皆同じ思いで日々の業務を行っていると感じ、自分の今行っている業務も、将来的に考えれば大切なスキルとなると感じることができました。
- 他の市町の方も同じような悩みを持っていることが分かりました。他職種から見た栄養士の印象は、まさにその通りと思いました。仕事のアピール頑張りたいと思います。
- 県、市町と所属が違っても、同じような悩みを抱えていたりすることが分かりました。
- 中堅期栄養士の人材育成研修がこれから考えられるということ。
- 「ヒト、モノ、金」の話は印象的でした。